

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702677		
法人名	有限会社福の里		
事業所名	福の里グループホーム結		
所在地	北九州市八幡西区楠橋上方2町目18-37		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果確定日	平成27年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楠橋の静かな住宅街の一角に平屋建てで屋根には、太陽の日差しを感じれる窓があり、明るい雰囲気である。庭には、畑があり玉ねぎやイモなどを育て、利用者様と共に、収穫の喜びを感じれる。職員は、年齢層が幅広く17歳から76歳のスタッフが働いておりそれぞれの得意なところ、苦手なところをカバーし協力して認知症高齢者の生活の質を上げ楽しい生活ができるように、職員も楽しんで仕事をしている。理念に掲げているように「自由な生活の支援」を念頭に入れ、認知症高齢者の個々の性格やこれまでの生活やご家族様との関係等を把握し今この方に何が必要で、どうして欲しいのかを考え支援している。年間行事も季節を感じられるよう、スイカ割り・夏祭り・ぶどう狩り・花火大会・運動会・花見等、外出の機会も増やしています。近隣幼稚園の毎月の慰問や、お互いに行事ごとの時は、招待し子供たちと関わり、パワーを頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

数年前、開設時の理念を職員で話し合い、現理念を創り掲げている。恒例となった夏祭りの招待状を地域自治会や関係機関に配布し、今年も地域の方々や家族等の多数の参加で賑わっている。幼稚園との交流も恒例となり、笑顔の入居者の写真が廊下に掲示されている。入居当初は歩行できなかった酸素療法中の方が現在歩行できるようになるなど、各入居者の生活歴や職歴等を考慮した丁寧な言葉かけや支援で、理念の自由な生活を具現化している。また、シフトの配慮や受験・受講料の補填やほめる指導で、楽しみながら仕事ができる人材の育成に努めている。運営推進会議で外出傾向のある入居者の対応を報告し、参加者から市民交流センターや公営放送等の活用の意見もあり、施設をしない生活を支援しているが、理念の自由な生活が広義であるため、職員が共有や実践しやすい具体的な表現について、話し合う予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **結・1**

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに介護理念「自由な生活の支援」を掲げ職員全員が共有し、同じ思いで実践できるよう話している。	開設時の理念を数年前職員で話し合い、現理念を創り掲げている。理念の自由な生活の支援との文言は、広義であるため、共有や実践しやすい具体的な表現について話し合う予定である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や地域の清掃活動・盆踊り・文化祭などに参加し交流している。 又、自治区会に加入し会議にも参加している。 近隣の幼稚園とは、園児の成長が、分かるほど関わりがあり、毎月楽しい時間を過ごしている。	自治会活動の参加もあり、恒例となった夏祭りは招待状を地域自治会や関係機関に配布し、今年も地域の方々や家族の多数の参加があった。また、幼稚園との交流も継続し、見学した運動会で声援を送る笑顔の写真が廊下に掲示されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏祭りを行っている。(そうめん流し・たこ焼き・から揚げ・カレー・金魚すくい・綿菓子・カキ氷等) 近所の方に、招待券を配布し遊びに来てもらい、認知症高齢者と共に夏祭りを楽しんでもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、事業所の報告は勿論民生委員の方やご家族の意見や質問提案等あり参考や改善につなげている。	家族や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加で定期的開催され、会議録を玄関に公表している。直近の会議では、外出傾向のある入居者の対応について報告し、参加者から市民交流センターや公営放送等の活用などの意見があった。	毎月入居者毎にホーム便りを送付されているので、運営推進会議の目的や活用を促すためにも、会議報告の記載をお願いします。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、必ず包括支援センターの方や民生委員の方が出席し、情報交換はできている。	ケースワーカーの来所もあり、日頃の状況を報告している。又、地域包括支援センターとも情報交換や連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中施錠せず解放している。利用者様は、危険の無いよう自由にしてもらい見守りを行っている。日常の声掛けの中に、拘束に近い言葉などがあればその都度、注意し合っている。会議やカンファレンスの中でも、拘束について話して周知している。	入居間もない方が無断で外出され、警察の協力で無事に発見された経緯から、家族に了解を得て、顔写真を使用できるように準備している。現在は落ち着いて生活をされているが、毎日数回全入居者の安否の確認を徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞で取り上げられることが増え自分たちに置き換え、考えることが増えてきた。利用者様の小さな傷や皮下出血を見逃さず記録に残している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを設置している。 現在利用者様で成年後見制度を利用している方が入居されている。 入居相談時に必要性のある方には、案内を行う。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備している。成年後見制度の利用者もあり、全職員で制度や事業の理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前訪問を行いホームの説明を行っている。 契約書・重要事項の説明を行い、理解できないとことを分かりやすく説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へアンケートを行い、集計し家族会で説明している。 面会時に声掛けをして、意見・要望をお聞きしているが、言いにくいことは、意見箱を設置している。	先日実施したアクティビティやヤクルトの購入等の負担に関する家族アンケートの結果を、明日の家族会で報告し、今後の方針を話し合う予定である。前回の家族会では法改正に伴う利用料金の変更について説明している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表と面談する機会は多くあり意見・提案は言いやすい環境である。	法人の介護サービス部門の管理者会議や各ユニットのミーティングを週1回開催している。ミーティングでは、入居者のケアに関する意見が多い。2～3年前に入居者の暴言が職員のストレスとなり、主治医に相談し内服薬が処方されたが、内服量を減らすように関わり、現在はピーク時の1/6になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、職員一人一人の個性を大切に、適材適所を考え効率よく働けるよう配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢は、関係なく思いやりがあり、楽しみながら仕事ができる人を採用している。 個々の家庭環境や性格を考慮し、配置している。 お互いの条件を歩み寄せ勤務時間や曜日の希望を聞いている。	17歳～76歳と年齢層に幅のある職員が就労している。今回2人目の男性職員が就労予定で、作成した新人研修プログラムに沿った育成を予定している。入職後、シフトの配慮や受験・受講料の補填を受け、介護福祉士等の資格を取得した職員や、ほめる指導で能力が伸びる気がする話す職員もあり、生き生きと就労している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	現場で気付いたときは、その場で伝えている。 ユニット会議の時にも、人権に関する話し合いもしている。	他県で開催された日本認知症グループホーム大会に参加している。接遇を学ぶ演題もあり、参加者の報告書を回覧している。日頃は、職員同士で言葉遣いを注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの能力を把握し現場で教育している。新人には、グループホームとは、から認知症についてを教育している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修などに参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて間もないときは、環境の変化に順応できず不安も多いので、慣れるまでの間、傍に寄り添う介護を心掛ける。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・事前訪問とご家族とも関わり、現在困っている事や要望を聴き取ることを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活状況を把握し、利用者様が求めている生活に近づけるよう提案し、支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションの中からも、昔ながらの知恵を教えてもらうことや生活の中で、洗濯や後片づけなどを共に行って、協力しながら生活している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は、日常の様子を報告します。家族とゆっくり過ごせるよう居室で面会していただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に生活歴・生活・性格を把握し少しでも馴染みのある生活ができるよう情報収集して対応している。 年賀状や手紙などを出し、関係の継続の支援をしている。	大晦日やお正月に家族とともに過ごすために外出や外泊をする入居者もあり、家族との関係継続を支援している。また、家族の訪問も多く、中には入居者の友人を伴って訪問する家族もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に顔の見える距離にいて、お互いで話をされている方も多し。難聴の方は、職員が間に入り利用者様同士が関わられるように努めている。個々のできることをしてもらい、協力しながら生活を送ってもらっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退所された方でも、時に面会に行くなどして関係を持ち続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の個々の望むことやしたいことなど、入居時のアセスメント行いご家族からの情報も頂き少しでも意向に近い生活ができるよう努めている。	元気だった頃の本人の暮らしシートや基本シートを整備し、各入居者の意向や思いの把握に努めている。毎月送付している日々の暮らし便り、担当者職員が入居者の意向や思いを把握する機会ともなっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報シートの記入を依頼し、これまでの生活や馴染みの生活を知り関わることにしている。日常の会話の中から、今迄の暮らしを聴かせてもらっている。これまでの生活環境に近づけることがあれば、支援する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもできないわけではない。できる時もあることを念頭に置き、状態に応じて、利用者様の有する力を発揮してもらい、見守る介護を心掛けている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、個々の目標についてのケアの内容を確認し、評価している。 家族には、面会時に現状の報告と要望を聞きケアにつなげるようカンファレンスで、職員と話し合い利用者様にとって快適に暮らせるよう努めている。	1週間毎のミーティングで入居者の状況を話し合い、3ヶ月毎の担当者会議で計画を見直している。入居当初は歩行できなかった酸素療法中の入居者が現在は歩行できるまでになり、本人の意向を十分に伺いながら、今後の生活について検討する予定である。	各入居者の思いや意向に努めているので、本人の言葉を明記することで、より現状に即した計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、支援経過に記録し朝礼・夕礼で申し送り職員に周知している。 個々の現状を持ち寄りカンファレンスで話し合い介護計画の見直しの参考になっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族の関係や状況を把握し、その時に必要な支援を行えるよう、観察と情報を集め、対応できるよう努めている。 ショートステイの方は、自宅の生活近い状態で、生活ができるよう考慮し、利用していただく。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園のイベントに参加することや、毎月の慰問で楽しい時間を共有している。 地域の行事に参加し、近所の方と関わりを持っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の説明を行う。 利用者様とご家族の希望される医院・病院に継続してかかってもらう。 状態によって、適切な医療を進めている。	酸素療法中の入居者は、入居前の主治医に家族が同行して受診している。協力医療機関が主治医の方は職員が受診に同行し、申し送り時に全職員で情報を共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気になることを相談し、その状況に必要な医療が、受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、日常生活の情報を病院に伝え、利用者様を知ってもらい、早期の退院をお願いしている。 又、入院中も状態を把握するため、SWと面談し情報を聞く為、訪問している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りや終末期のことをお聞きし、把握はしているが、その時期が来たらその都度、状態の変化に合わせて、ご家族に相談の上、地域医療と共に支援していく。	重度化した場合の方針を整備しているが、現在まで看取りの支援はなく、肺炎で協力医療機関に緊急搬送した入居者は、先日医療機関で逝去された。看取りを支援するのは、家族の協力や訪問診療、訪問看護との連携も必要なことから、ホームでの看取りは難しいのが現状である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に、焦らないようマニュアルを作成している。 時に、救急搬送の手順をロールプレーで訓練している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時などに、館内放送ができるように、全職員が放送している。 年に2回、避難訓練と消火訓練を行っている。 それ以外に、消火訓練などロールプレーにて、身体で覚えるよう研修している。	年2回、避難訓練を実施している。前回の訓練では、消防署から真剣に取り組んでないなどの指摘を受けたが、運営者の声かけで予告なしで水消火器の訓練をしている。又、緊急時に落ち着いて放送が出来るように、定期的な換気を促す管内放送を全職員で実施している。	近隣や地元消防団に具体的な協力をお願いされることや、災害に備えて3日間分の飲料水等の備蓄の整備を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今の利用者様の心理状況を把握し、気持ちを理解し会話するように、心がけている。 言葉選びや声のトーンにも気配りしている。 利用者様の性格や大切にしていることを、重視し尊重している。	理念の自由な生活を支援するには、丁寧な言葉遣いからと、各入居者の生活歴や職歴等を考慮した言葉かけを実践している。特に入浴時や排泄時の言葉かけに留意している入居者もある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中で、利用者様の思いや希望を聴き取りできることは、実行していく。二者択一で、質問し答え易く選択できるよう、声掛けしている。職員のペースに巻き込まないように、利用様のペースを大切に、観察・声掛けを行う。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にしたいことがあれば、希望に添えることは直ぐに対応している。 歩行できる方は、屋内を自由に歩いてもらい安全の見守りをしている。 一日を、笑顔で、終えるよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方は、外出の時に、好きな洋服を選んでもらう。以前、良く選んで着ていた洋服を着てもらっている。毎月、理美容に来てもらい、カットや整髪してもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の匂いやメニューを五感で感じてもらう食事が、待ち遠しく、楽しみとなるようにしている。食前は、誤嚥しないよう口腔体操を行っている。食べたいものをお聞きし、メニューに組み込めるよう勧めている。	法人の他のサービスの利用者の食事も調理担当職員が作っている。職員の介助や見守りで食事をしたり、ゆっくりと自分のペースで2時間かけて食べる入居者もある。食べたい献立をレクリエーションで尋ねたり、入居者でおやつクラブを立ち上げ、月1回おやつづくりで、食べる楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量のチェックと把握は、毎日行い不足しているときは、申し送り食べれるよう飲めるよう心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア行い、不潔にならないよう努めている。 義歯の洗浄も、定期的に行っている。 必要に応じて、歯科往診も依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のトイレのタイミングを把握し、時間置きに、トイレ誘導を行い汚染を少なく、トイレでの排泄ができるよう支援している。 立位が困難な方でも、二人介助を行いトイレ誘導をしている。	日中はトイレでの排泄を基本に、声かけに留意しながら支援している。入居時はオムツだった入居者も歩行できるようになり、トイレで排泄している。疾患の特性で排便の確認は容易でないが、下着の汚染等で確認したりしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分を促し、便秘しないよう働きかけている。 腹部マッサージを行い、自然排便を促している。 個々の排便の状況を把握し、不快な状態が続かないよう心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方は、毎日のように声をかけ機嫌よく入浴できるときに入っていたり。	ミスト浴のできる浴室もあり、1日おきの入浴を支援している。浴槽の跨ぎができずシャワー浴で対応する場合は、浴槽内に足を入れるなどで保温に努めている。身体に触れるのを拒む入居者には、丁寧な言葉かけをしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況(年齢や体調)に合わせ、昼に横になる時間を作り、休息してもらっている。 入眠の強要や消灯など決めず、その日その時に応じて、対応し眠れない時は、会話やテレビなど観て、心地よく眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書きを、ファイルし直ぐに見れるようにしている。 病状の変化で追加の処方があるときには、連絡ノートなどで申し送り周知している。 医師・薬剤師と情報共有し、薬の調整を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族から情報をいただける方は、情報シートを記入してもらい把握する。 利用者様から嗜好を聴き取り、楽しんでできることや気分転換になることを、実行できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の要望までは、困難ですが、気分転換になるようドライブや季節を感じるようぶどう狩り・運動会などに出かけている。 日常では、天気の良い日は、屋外でおやつや昼食を提供し、いつもと違う気分で過ごせる時間を作っている。	9月は、1名の家族とともに馴染みのぶどう園でぶどう狩りを楽しんでいる。ホームの庭で外気浴を楽しんだり、職員の所用に同行してドライブしたり、近隣の幼稚園の焼き芋パーティーやそうめん流しに参加している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、紛失や物とられなどあり困難な状態ですが、外出時など買いたいものや必要な物の購入は、支援できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり、自由に連絡を取っている。難聴の方は、要望があった時に電話代行している。 年賀状の作成の支援や担当者が一人一人の様子を手紙に書き毎月郵送している。(福の里便り)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除と、午前・午後と換気を行っている。 居室は、毎日除菌と空気清浄機にて感染予防している。 天気の良い日は、天井の窓から自然の光入れている。 毎月生け花の先生の指導により居室やリビングに、生花が生けてある。	玄関入口の階段は傍にスロープも設置され、下駄箱には名札がつけられた入居者の靴が並んでいる。共有空間は厨房前に食卓や椅子が、一角の畳の間にはソファやテレビが設置されている。季節のクリスマスツリーや飾り付けがされ、ソファで寛ぐ入居者も多い。天窓に設置されたすだれで、適切な採光をしている。季節柄、感染症予防のため、空気清浄器を効率良く利用したり、館内放送で職員に換気を促している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが沢山あり、好きなところで好きな方と座り会話できる空間づくりをしている。 利用者様同士の関係も大切に、会話が弾むようさりげなく支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具を持って来られたり、仏壇なども持って来られている。 居室が安心できる居場所になるよう、工夫している。	居室入口に表札が掲示され、暖簾を掛けてあったり、誕生日にホームから贈られたお花の鉢やフラワーアレンジメント作品を飾っている居室もある。酸素濃縮器が設置された居室もあり、担当職員が清掃し、居心地よく過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のレベルに合わせ一人のできることは、見守りながら安全を確保し、自由に生活できるよう支援している。		